

# 飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第357号



東海大学附属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2016年9月1日

●発行者/東海大学附属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

**サッカー部 インターハイ出場**  
**ダンス部・軽音楽部 全国大会出場**  
**ゴルフ部 関東大会出場**  
**ラグビー全国合同チームに選抜される**  
**第48回剛健旅行実施**

TOP\*NEWS



高校女子・中等部スタート



高校男子スタート



パノラマラインをひたすら歩く



浅間山をバックに



中等部男子1位(安野旭くん)



中等部女子上位入賞者(左から、佐藤七海さん、三須恵美香さん、中村水音さん)

## 高輪カップ(卓球)・高輪ウィンドフェスティバル(吹奏楽) 開催

# 第48回 剛健旅行1,473名参加 完歩率98.0%

高原のそよ風、青空に浮かぶ浅間山の勇姿と星空のシャワーを求めて、半世紀近い時を刻む剛健旅行が、7月8日(金)昼から9日(土)早朝にかけて、群馬県吾妻郡嬭恋村東海大学嬭恋高原研修センター周辺で実施されました。

鳥居峠スタートの林道が復旧していないため、昨年と同様、研修センターをスタートし、研修センターがゴールの中等部19.0km、高校女子30.0km、高校男子36.0kmの歩行でした。トップを狙い必死に走ったり、足を引きずり友人と励まし合いゴールを目指したり、それぞれの思いで参加した剛健旅行、一生の思い出に残る旅であったでしょう。

### 結果発表

#### 高校男子トップ10(36.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	2	2	石田 蓮	陸上競技
2位	2	6	馬場 勇利	サッカー
3位	2	2	河西 俊輔	陸上競技
4位	2	4	長谷川 拓海	陸上競技
5位	1	1	生魚 雄利	陸上競技
6位	3	9	岩屋 喬士	サッカー
7位	3	6	田中 亮佑	サッカー
8位	2	7	小田原 寛記	サッカー
9位	1	1	佐野 樹	陸上競技
10位	2	10	長澤 永知	陸上競技

#### 中等部男子トップ10(19.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	3	B	安野 旭	サッカー
2位	3	B	堀田 耀平	男子バスケ
3位	3	A	綿谷 恵達	男子バスケ
4位	2	A	後笠上 颯人	陸上競技
5位	2	A	三嶋 健詩	ソフトテニス
6位	3	B	持齋 心	ソフトテニス
7位	3	B	高林 大河	男子バスケ
8位	3	A	上條 晃	男子バスケ
9位	3	A	小澤 幸太	陸上競技
10位	3	A	谷口 司樹	男子バスケ

#### 高校女子トップ10(30.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	3	9	横井 千紜	女子バレー
2位	3	3	毛塚 千尋	女子バレー
3位	3	5	原 優里	陸上競技
4位	3	2	松本 月穂	女子バレー
5位	3	3	荒井 真尋	女子バレー
6位	1	5	大河 舞衣	陸上競技
7位	3	2	多田 萌華	女子バレー
8位	3	3	橋本 羽香	女子バレー
9位	2	6	田口 ともみ	女子バレー
10位	1	6	中嶋 涼嘉	女子バレー

#### 中等部女子トップ10(19.0km)

順位	年	組	氏名	部活動
1位	3	B	三須 惠美香	女子バスケ
2位	3	A	佐藤 七海	柔道
3位	3	B	中村 水音	女子バスケ
4位	3	B	正岡 千佳	陸上競技
5位	2	A	天野 葉月	陸上競技
6位	2	A	清川 真央	女子バスケ
7位	3	A	萩原 葉月	女子バスケ
8位	3	A	田 理奈	陸上競技
9位	2	A	塩見 怜奈	ソフトテニス
10位	2	B	星野 南桜	ソフトテニス



### 感謝

高校男子 第1位  
2年2組 石田 蓮

私は今回の剛健旅行で1位を獲ることができました。高1の時は1位と少しの差で2位だったことや、タイムのことですごく悔しい思いをしました。剛健旅行は36キロという普段では走れないような距離を

走れるということで、とても楽しみな行事です。今年も空気がきれいなところで走れて、心から楽しむことができました。ただ今年は去年と違い、満点の星空ではなく曇っていました。雨は初めの方に小雨が降っただけだったので良かったです。

この行事は嬭恋村の方々、後援会の皆様、先生方、掃除をしてくださった部活動の人たちのおかげで続いています。本当に感謝しています。ありがとうございます。

私が1位になれたのは周りの人たちの応援と一緒に走った友達のおかげです。来年も全力で走り、さらに新記録を出し、1位を獲ろうと思います。



### 達成感でいっぱい の剛健旅行

高校女子 第1位  
3年9組 横井 千紜

高校最後の年で2回目の剛健旅行となり、「前回1位でゴールしたからには今年も1位でゴールしよう」と思っていました。30キロという長い距離を自然に囲まれながら走ることは私の中では一つの楽しみでし

た。今年は前年よりも涼しく走りやすかったのですが、少し曇ってしまっていたのが残念でした。

スタートして、去年と同じ道を走りながら、「あ、ここ来たことあるな」「去年はこうだったな」と思い出を振り返りながら走っていました。第1、第2チェックポイントと順調に通過してきましたが、最後の上り坂は本当に大変で、喝を入れながら進んだの覚えていてます。

ゴールした時に、走っていた分の疲労がどっと出ましたが、疲労以上に達成感があって、2年連続の1位で前回タイムも更新でき、最後の剛健旅行を自分なりに楽しめて良かったです。

### 男子 卓球の部

参加校 16校

優勝	世田谷区立砧中学校
準優勝	江東区立深川第八中学校
3位	市川市立南行徳中学校

- |              |             |                  |
|--------------|-------------|------------------|
| 大田区立田園調布中学校  | 江東区立深川第八中学校 | 世田谷区立砧中学校        |
| 大田区立御園中学校    | 葛飾区立本田中学校   | 市川市立南行徳中学校       |
| 江戸川区立小岩第一中学校 | 練馬区立石神井南中学校 | 川崎市立井田中学校        |
| 江戸川区立小岩第三中学校 | 新宿区立牛込第三中学校 | 東海大学付属高輪台高等学校中等部 |
| 江戸川区立小岩第四中学校 | 品川区立鈴ヶ森中学校  |                  |
| 江東区立深川第七中学校  | 目黒区立目黒中央中学校 |                  |

### 女子 卓球の部

参加校 8校

優勝	江東区立深川第七中学校
準優勝	さいたま市立大宮東中学校
3位	練馬区立石神井南中学校

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 江東区立深川第七中学校 | 江戸川区立小岩第一中学校 |
| 大田区立御園中学校   | 川崎市立井田中学校    |
| 練馬区立石神井南中学校 | 川崎市立西中原中学校   |
| 足立区立第十一中学校  | さいたま市立大宮東中学校 |

顧問 細田 功



男子優勝 世田谷区立砧中学校



女子優勝 江東区立深川第七中学校

第11回高輪カップが7月18日(月)、本校アリーナにおいて行われました。本校部員の母校を中心に、男子16校、女子8校が集まり熱戦が繰り広げられました。試合は、男女とも4チームによる予選リーグを行い、午後からは各ブロックの1-2位校、3-4位校によるトーナメント形式の試合が行われました。男子決勝戦は、世田谷区立砧中学校が江東区立深川第八中学校を3対1で下し2年連続の優勝を果たしました。女子も昨年に続き江東区立深川第七中学校がさいたま市立大宮東中学校を3対0で下し2年連続3回目の優勝を果たしました。

本校中等部男子は、予選リーグ1勝2敗で三つどもえとなりましたが、勝率の関係で残念ながら4位となってしまいました。午後からの3-4位トーナメントでは初戦、新宿区立牛込第三中学校に3対0で勝利し、準々決勝で川崎市立井田中学校に0対3と敗れてしまいましたが、3位決定戦で葛飾区立本田中学校に3対0で勝利しました。技術力やチーム力で昨年以上に大きく成長した姿を見ることができました。

今大会が、各校顧問の先生方ならびに多くの方々のご協力により、無事終了できたことを心より感謝申し上げます。



高輪台中等部



熱戦の様子

### 吹奏楽の部

- |               |             |                  |             |
|---------------|-------------|------------------|-------------|
| 墨田区立本所中学校     | 習志野市立第二中学校  | 文京区立第十中学校        | 大田区立東調布中学校  |
| 瑞穂町立瑞穂中学校     | 習志野市立第五中学校  | 横浜市立南瀬谷中学校       | 川崎市立井田中学校   |
| 川崎市立宮崎中学校     | 千葉市立蘇我中学校   | 横浜市立上の宮中学校       | 大田区立雲谷中学校   |
| 川崎市立田島中学校     | 大網白里市立大網中学校 | 品川区立荏原第五中学校      | 足立区立瀨江中学校   |
| 足立区立第十三中学校    | 横浜市立中川西中学校  | 荒川区立第五中学校        | 足立区立第十一中学校  |
| 習志野市立第七中学校    | さいたま市立宮原中学校 | 荒川区立尾久八幡中学校      | 越谷市立富士中学校   |
| 川崎市立高津中学校     | 川崎市立東橋中学校   | 品川区立日野学園         | さいたま市立泰平中学校 |
| 品川区立富士見台中学校   | 多摩市立落合中学校   | 川口市立青木中学校        | 品川区立戸越台中学校  |
| 八王子市立ひよどり山中学校 | 横浜市立希望が丘中学校 | 東海大学付属高輪台高等学校中等部 | 練馬区立開進第二中学校 |
| 町田市立木曽中学校     | 市川市立第八中学校   |                  | 大田区立大森第四中学校 |
| 川口市立幸並中学校     | 横浜市立田奈中学校   |                  | 川崎市立野川中学校   |
| 相模原市立大野南中学校   | 横浜市立奈良中学校   |                  | 八王子市立栢田中学校  |
| 横浜市立深谷中学校     | 横浜市立中田中学校   |                  | 江戸川区立東葛西中学校 |

顧問 畠田 貴生



第8回高輪ウィンドフェスティバルが7月24日(日)に開催されました。

参加校は昨年よりもさらに増え総勢58校の中学校吹奏楽部が、本校アリーナにて素晴らしい演奏を披露してくれました。演奏者だけでも1,700人以上、そして例年以上に保護者の皆様をはじめとするたくさんの方々の観客の方々にご来校いただき、アリーナはほぼ満員となりました。

3人の講師の先生方に今後の活動でのアドバイスをいただき、目前に迫った吹奏楽コンクールへさらなる飛躍を目指す中学生の姿が印象的でした。フェスティバルの最後には本校吹奏楽部のスペシャルコンサートを楽しんでいただき、終演を迎えました。

中学校の先生方からは、毎年楽しみにしてくださっているとのうれしいお言葉も多くいただきました。今後さらに有意義なイベントとなるようにしていきたいと考えております。

今回も高輪ウィンドフェスティバル開催のために、本当に多くの方々にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

# サッカー部 インターハイ出場

## 応援、ありがとうございました。

サッカー部 スタッフ・部員・保護者一同

### 3年生 先発フル出場 角田 篤生

全国大会では、「チームで戦う」ということの大切さを感じました。ピッチで戦う選手、応援してくれる選手、チーム一丸となって必ずまた全国の舞台に立ちたいと思います。



### 3年生 途中出場 白井 研

私は残り時間がほとんどない状況でピッチに入りました。0-1でチームが負けていたので、点を取りに行くこと、チームを最後まで盛り上げることを特に意識しました。しかし、点を取ることができず、負けてしまいました。最後の選手権、必ずピッチに立って活躍したいです。



### 3年生 ベンチ入りスタッフマネージャー 中川 良佳

インターハイでは普段より多くの助けを感じることができました。選手たちが悔しい顔でベンチに戻ってきたので、次は笑顔で戻ってこられるようにサポート頑張ります。



### 3年生 サポートメンバー 竹下 友弥

今回のインターハイのサポートメンバーとして一番意識したことは、試合前から選手たちが100%の状態プレーできるように自分たちがピッチ内やピッチ外の準備をすることです。選手たちが気持ち良く試合に入れたと言ってくれたので、自分の役割は果たせたと思います。しかし、選手たちのサポートをしていると試合に出られない悔しさも込み上げてきました。その悔しさはすべて選手権にぶつけたいです。

### 3年生 応援リーダー 福島 豪

試合は一回戦で負けてしまいましたが、応援は声もすごく出ていたし、まとまっていたので、今までで一番良い応援ができました。まとまってきたのは、チーム全員が自分に何が出来るかを積極的に考え、行動したからです。選手権で必ず東京代表となり、全国の舞台で日本一を取りに行きます。



### 2年生 応援 松永 浩誉

全国大会当日は朝から練習試合があり、キックオフ1時間前にスタジアムに到着しました。スタジアムに着いてから、すべての準備が終わるか心配でした。しかしみんなで協力し、のぼりや横断幕を設置するなど、準備がとてもスムーズに進み、キックオフ前にしっかり終わらせることができました。試合後は、ゴミ拾いなどを行い、来たときよりもスタンドをきれいにできたので、よかったです。

### 1年生 応援 内野 耕作

今回のインターハイでは、応援と試合においてチーム一丸となり戦うことができたと思います。また、自分たちには足りない球際の強さや、ヘディングの強さ、また自分の課題としている縦パスやその展開も見ることができ、とても良い経験になりました。オフザピッチでは感謝する大切さも学ぶことができました。

### 保護者代表 袖山 清美

全国出場にあたり、ご支援いただいた多くの方々へ心より感謝申し上げます。選手たちは仲間の温かい声援を力に、全国の舞台でしっかりと高輪台のサッカーを魅せてくれました。ここまで子供たちを成長させ、ご指導いただいた監督、先生方、本当に有難うございました。

### 試合結果

東海大高輪台 0-1 日章学園 (宮崎県)

出場メンバー

GK	角田 篤生	3年
DF	小林 陸玖	2年 (交代→永野颯人 3年)
DF	佐々木 駿	3年
DF	木下 勇樹	3年
DF	木次 悠	3年
MF	袖山 翼	3年
MF	武川 剣進	3年 (交代→白井 研 3年)
MF	高野 颯翔	3年 (交代→小杉康太 3年)
MF	武井 成豪	3年
MF	水野 団	3年
FW	本藤 悟	3年
SUB	田仲 真也	3年
	吉田 泰侃	3年
	本多翔太郎	2年

# 部・同好会活動報告

## 全国高等学校ダンスドリル選手権大会 出場

ダンス部

### 舞台から見たもの

3年4組 浅野 桃佳



私たちが1年生の時、先輩方がたくさんの汗を流して必死に目指していた憧れの舞台に、自分たちが立つ番となりました。私たちの目標は全国優勝。この大会までに大変なことがかりでしたが、その分、得たものは大きく、舞台から見たものは、私たちがこの舞台に立てるように尽力してくださった先生、コーチや保護者の方々、友人、またサポートし続けてくれた後輩たちの姿、そして、同じ目標に向かって闘っているみんなの姿でした。その時、ダンスができるこの環境に、仲間に、応援してくれるすべての方に感謝の気持ちでいっぱいになりました。結果はHip Hop男女混成部門Large編成で準優勝。私たちの望んでいた順位ではなかったですが、大きな目標に向かって仲間と努力した時間はかけがえのない財産であり、自信となりました。

建学祭で3年生は引退です。建学祭ではダンス部一丸となって、たくさんの人の心に感動を届けられるように精進していきますので、これからも応援をよろしくお願いいたします。

## 全国高等学校総合文化祭軽音楽部門 出場

軽音楽部

### 初の総文祭

3年8組 佐藤 拓海



今回、東京都代表として全国高等学校総合文化祭に出場させていただいたOverです。

大会の会場である上野学園ホールは、今までに見たことのないくらいステージが大きく、機材や照明も桁違いの規模で圧倒されました。

大会の運営は、地元の生徒さんたちがおもてなしをしてくださり、親切にサポートしてくれたので気持ち良く演奏することができました。また、会場のロビーでは誰でも自由に触ることので

きる楽器が置かれていて、経験者の人も初心者の人も楽しめる工夫が施されていました。

演奏面では全国大会ということでたくさんの他都道府県のバンドが集まっていて、自分たちのバンドという固定概念の殻を

破り、幅広いジャンルの音楽を楽しみ、学ぶことができました。このような素晴らしい大会に出場できたことに感謝し、得られたものを少しでも多くこの先の活動に生かしていきたいと思いますので、これからも応援をよろしくお願いいたします。

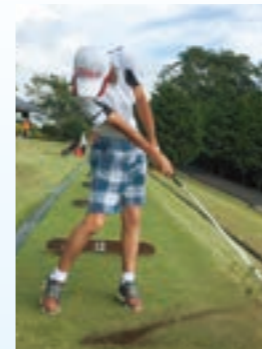


## 関東高等学校ゴルフ選手権大会(決勝) 出場

ゴルフ部

### 遠かった全国大会

2年10組 藤井 優駿



今回、3大会連続で関東大会に出場しました。前回ほんの数打の差で全国大会を逃したので、「今回こそは!」という気持ちで、今までにないくらいに気合を入れ、一打一打本当に集中して回りました。ピンチでも動ぜずパーを拾い、結果、前半は2バーディー2ボギーの36打、パープレー。この上ないスタートを切れました。「このままいければ、確実に全国に」、そんな気持ちも湧き起こりました。しかし、後半2ホール目にミスをし、痛恨のダブルボギー。本当にギリギリのところまで気持ちを追いこんでいたせいか、何かそこで気持ちが切れるような状態になりました。その後も、なんとか立て直そうとしてプレーしたのですが、思うようにスコアを伸ばせず、翌日も同様に78のスコアとなりました。

今回感じたのは、心技体すべて揃わないと、ということです。今回、その心の部分にも弱さがあったのだと思います。次回は秋の大会。技術、体力、精神面をもっと鍛えて、「確実に」全国へ出場できるよう頑張ります。

### 初めての関東大会

2年3組 永田 裕紀



今回、初めて関東大会に出て思ったことは、他の高校の選手とのレベルの差です。私は、高校からゴルフを始め、毎日練習をしてきました。しかし、それでも昔からやっている選手との実力差は、とても大きいものであると感じました。一つ一つのショットの正確さや、飛距離などのあらゆる面で一つ上を行かれていることを実感しました。

また、関東大会での収穫もありました。それは、自分のゴルフをするということです。背の大きい人や、飛距離の出る人とは、違う攻め方をしないと同じステージに立てないということがわかりました。そのために、まず自分のゴルフをよく理解し、練習をすることが必要ということもわかりました。自分のゴルフは他の選手と比べ、今までゴルフをやってきた時間も違うので、その分を今後の練習量で取り返したいと思いました。

今回の関東大会出場は、自分にとって非常に大きな経験となりました。このことを生かして次回の関東大会では、良い成績を出して、全国大会に行けるように頑張ります。

## 全国高等学校合同チームラグビー大会(コベルコカップ) 優勝

ラグビー部

本校ラグビー部の中前裕太君が合同チーム東京都選抜に選出され、第12回全国高等学校合同チームラグビー大会(コベルコカップ)に出場しました。

### 全国選抜合同大会について

3年3組 中前 裕太

今回の大会では、1トライをあげることができました。昨年度は全国優勝を逃したので、今年こそはみんなで力を合わせて優勝しようとチーム一丸となって大会に挑みました。結果として全国優勝でき、とても満足いく結果を得られました。今年も1年生も多く入り、他の部活動の協力があったからこそ、ここまでやってこられたと思います。秋の大会が最後の大会なので、日々の練習に励み、1日でも多く今の部員たちと過ごせるように頑張りたいと思います。



# 第8回 中等部体育祭開催

## 初めて委員長として挑む最後の体育祭

体育祭実行委員長 3年B組 辻 京輝

今回の体育祭は、今まで以上に興奮し充実した体育祭でした。僕はこれまで体育祭を何度も経験してきましたが、中でも1位2位を争うほど楽しい体育祭でした。それはなぜでしょうか。その理由を考えたら、答えは一つしかありませんでした。それは、中等部最後の体育祭だったので、みんなが自分から楽しもうとして積極的に参加し、赤白関係なく一体になって楽しめたからです。これは委員長としては100点満点の体育祭をできたと思っています。しかし、白組の一人として考えると優勝できなかったことは残念だったので、個人的には99点です。

最後にこのような体育祭ができたのは、準備をしてくださった高校の部活動の先輩方や体育祭実行委員のみんな、そして何より僕を支えてくれる家族や先生の協力があったからです。協力してくださった皆様、これほど楽しい体育祭をありがとうございました。



選手宣誓

徒競走



箱リレー



玉入れ



背渡りリレー



AB対抗リレー



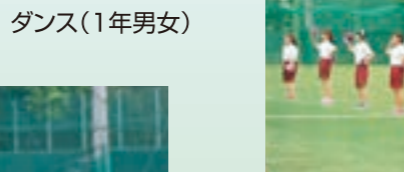
部・同好会対抗リレー



ダンス(2・3年女子)



組体操



ダンス(1年男女)



ボール運び競走



台風の日



おんぶ・二人三脚障害物競走

## 絆で勝った体育祭

赤組応援団長 3年A組 谷口 司樹

今回の体育祭は3年間で一番熱く、思い出に残る体育祭でした。すべての種目を皆が頑張り、皆が「優勝」という二文字を目指して、ただひたすら頑張っていた本当に良い体育祭でした。

応援団の練習の時もみんながテンションを上げて乗り気でやってくれたので、とてもやりやすかったです。本番、心配だった「元気出していこう!」とみんなで声を出すとこも大成功しました。

今回、赤組が勝てたのは一人ひとりが最後まで勝負を諦めなかったことだと思います。途中、白組に追い込まれた極限の状態でもみんなが諦めなかったことで優勝をつかめたのだと思います。そして、赤組とここまで良い勝負をしてくれた白組にも本当に感謝したいです。

こんなにも熱く思い出に残る体育祭の団長をできたことを僕は本当に誇りに思います。

## 2回目の応援団長

白組応援団長 3年B組 高林 大河

僕は、小学6年生の時にも運動会で応援団長をしたことがあります。しかし、小学校と中学校では全く違うことがありました。それは、小学校では大半のことを先生が決めていたのに対し、中学校は自分たちですべてを決めたということです。しかも、僕は部活動の引退試合が近く、時間が限られていてその少ない時間で振り付けを考え、先輩たちに教えるのは、非常に大変でした。今回はクオリティの高いものになろうと考えたため、本番前日まで練習を繰り返しました。いざ本番となってやってみたら楽しくできたので、よかったです。

そして、感謝したいのは、その場で盛り上げてくれた皆やさまざまな小道具を用意してくれた先生、何より応援団のBGMを編集してくれた松本くんです。本当に感謝しています。

体育祭は負けてしまったけど、最後の体育祭で応援団長ができたことは良い思い出になりました。



応援合戦 赤組



応援合戦 白組

## 初めての体育祭

1年A組 平良 一葉

中学生になって初めての体育祭。私は良い日になったと思いました。楽しいこともあり、学ぶこともあって、とても楽しかったです。

私が楽しかったと思うのはクラスが一つになったときです。「台風の日」ではみんなで協力したからこそ、勝つことができたのだと思います。また、この他に楽しかったことといえば、応援です。一人が応援し始めると、自然とみんなが声を出し、一緒に応援していました。同じクラスの子だけでなく、先輩のことも心から応援し、先輩方も私たち後輩のことを応援してくださり、とてもうれしかったです、楽しかったです。

そして、私が今回の体育祭で学んだことは、「協力」です。私が協力の大切さを一番感じたのは、「台風の日」と「全員リレー」です。台風の日にはみんなで声をかけ合い、どうしたら勝てるのかを考えました。全員リレーは、みんなで走っている人を応援し、走っている人は全速力で走って、勝つように頑張りました。このようにみんなが協力したから団結できたのだと思います。

初めての体育祭でとても良い思い出ができました。また来年が楽しみです。

## 悔しかった体育祭

2年B組 大橋 烈

体育祭では、クラス対抗の競技がたくさんあります。クラスで「頭脳で勝つ」という目標を作り、作戦会議を何度もしました。

そして本番を迎えました。徒競走は何とか目標を達成することができました。

女子対抗の箱リレー。A組が強いだけに半分諦めていました。案の定B組はゆっくり慎重に運ぶのに比べ、A組はとても速く一走目で大きな差がついてしまいました。みんなが諦めかけていました。しかし、A組が箱を落として、差が縮まりました。その後もB組は慎重に落とさないように行き、最終的に半周差以上差をつけて勝ちました。「頭脳で勝つ」とはこのことだなと実感しました。

最後のリレーは最初についた差を埋められないまま、アンカーの僕にバトンが渡されました。みんなが一生懸命つないでくれたバトンを最後までつなごうと全力で走りました。走っている途中多くの人が僕に声援を送ってくれて涙が出そうになりながらゴールしました。

結果は残念でしたが、大切なことを学んだ体育祭でした。

# 作文コンテスト



2016年5月18日、中等部では作文コンテストが行われました。今回の課題は「助け合い」です。50分間で考えをまとめ、文章にすることは簡単なようで難しいものです。今回、グランプリ、準グランプリに選ばれた皆さんは、それぞれの思いを400字という文章の中でしっかりとまとめてくれました。ここにグランプリ作品を紹介します。

## 1年グランプリ

1年A組 松本 凌悟

「友達」が助け合いができる人だと思う。友達とは、けんかや遊んだりする人でもあると思うが、第一は助け合いのできる人だと僕は思う。僕はこういうことがあった。

ある日の運動会。この時は6年生だった。組体操がある。僕たちは困難を乗り越え、最後の全員ピラミッドまでいった。これは、みんなの心が一つにならないとできないことを知った。つまり、助け合いだ。一人でも気が抜けるとバランスを崩したりする。でも、みんなで助け合えばきれいにできると思った。結果は大きな拍手で囲まれた。

この経験から「助け合い」は大事なことだと知った。そして、誰かを助けられることを知った。助け合うのは難しいかもしれないけれど、がんばっていききたい。助け合うからこそ、友達ができる。助け合えば、お互いが笑顔になれる。僕はそれが良いことだと思っている。だから、友達や家族を大切に、「助け合い」の心を持ち、がんばりたい。

## 3年グランプリ

3年A組 鈴木 ひなの

「助け合いをしていますか」と聞かれて、迷わず、心から「はい」と答えられる人が何人いるでしょうか。私はそうは言えません。

思い出してみると、私は助けられた記憶はたくさんありますが、助けたという記憶はそんなにありません。どちらかというと私は助ける側より助けられる側にいる事が多いのだと思います。それは私が、まだ子供な事や周りに気を配る事ができていないからです。

それでも周りの人が私を助けてくれるのは、その人も助けてもらったことがあるからだと思えます。助けられる側にいた人は助けてもらう事のありがたさを知っているので無条件でも、手をさしのべてくれます。

助け合いは、これが何周も回って来て、出来ていることだと思えます。人は人を見て育っていくので私達の次世代に助け合いの心を持たせるのは私達です。私達には、この美しい助け合いの心を伝える義務があります。

## 2年グランプリ

2年B組 杉原 彩花

今、この時代において、助け合いは無くてはならないものだと私は思います。

例えば、少子高齢化社会において。病院へ行っても、町を歩いていても高齢の方が多くいます。その中でも体のどこかが不自由だったり、重そうな荷物を持って歩いているなど困っている人を見かける事も少なくありません。そのような時に「お手伝いしましょうか」の一言をかけた時、荷物を手伝いをするだけでも助け合いになります。

もう一つ、最近よく地震があり、つい先月も熊本で震度7が、5年前にも東日本大震災があったりと生活環境や食料に困っている方もいます。そのような人たちに募金や、水、食料を送ることも助け合いになると思えます。

私たちのまわりには困っている人々が少なからずいると思います。そのような人々を気にかけて、助けることがまた助け合いにつながるのではないかと思います。

1年 グランプリ A組 松本 凌悟  
準グランプリ B組 野上 真央

2年 グランプリ B組 杉原 彩花  
準グランプリ A組 山本 拓海

3年 グランプリ A組 鈴木 ひなの  
準グランプリ B組 大津 奏



左から 松本君、野上さん、杉原さん、山本君、鈴木さん、大津君

# 2016年度 小論文コンテスト



左から 荒井さん、中村さん、沼田さん、近藤君

2016年5月18日(水)は「付属推薦小論文」の試験日であり、高校3年生で東海大学進学希望者は、全員この試験を受験しました。同じ日に高校1・2年生を対象として、全く同じ課題で「小論文コンテスト」を実施しました。これは1年後、2年後の予行演習として1・2年生の生徒の皆さんにも体験してもらっているコンテストです。

今回の論文課題は、「アリの集団には働かない働きアリ」というような個体が2、3割存在する。そして普段サボっているアリは、仲間が疲れて休むと代わりに働く。短期的にみると無用と見える個体が、長期的にみると有用である。このアリの集団に見られた現象は人間の社会にもあてはまるか」という内容でした。賛成・反対のどちらかの立場に立って、その理由も書くというなかなか手ごわい課題でした。

皆さんの書いた作品の中から、1年生・2年生からグランプリ・準グランプリを各学年の先生方に選んでもらい、7月の朝礼で表彰をしました。以下に作品を紹介します。

## 高校1年生 グランプリ

1年4組 中村 結衣

アリの集団に見られた現象は人間社会にも当てはまるかという問題に対し、私は当てはまらないと考える。なぜならば、私たちは「ヒト」ではなく「人間」というくくりで見ると一般的だからである。たしかに、アリもヒトも動物であるから、同じような現象が起こってもおかしくはない。現に、社会の秩序など無かった縄文時代では交代で仕事をするといった動きがあった。

しかし、現代社会ではどうだろうか。たとえば、ある人は一生懸命働いており、ある人は仕事をせずだらだらしているとしよう。後者の人は、一生懸命に働いている人が疲労してきたら、その人の仕事をカバーしようとするだろうか。「どうせ誰かがやってくれるだろう」とサボり続けるのではないだろうか。現代社会はとて大きくくくりである。ヒトの世界は誰かが働き続けたいといずれ自分にも直接的な被害が及ぶ小さい世界だ。対し人間の世界は生活保護など最低限の生活が保障されており、たった一人が働かないくらいでは、たいして社会に変動はない大きな世界である。

勤勉な人と怠ける人の混じった社会では、「あのようにはないたくない」という多少のプライドの上で向上を目指すことは可能だ。また人間は笑い悩み考えることで発展してきた。しかし、その感情ゆえに、人間が動物的で効率の良いアリと同じ動きをすることは難しいのではないだろうかかと私は考える。

## 高校1年生 準グランプリ

1年2組 荒井 千夏

私はこの現象が人間の社会にも当てはまっていると思う。なぜかという、もし一斉に働いていたらアリと同じように人間も一斉に疲れてしまう。そうしたら休んでいる間は仕事も一斉に止まって自分の会社だけでなく他の会社やもしかしたら世の中まで影響を及ぼしてしまうことになる。だが今現在の世の中を見ると24時間ずっととまらずに動いている。それは、朝から働いている人が疲れて休んでいる間に今まで休んでいた人が夜から働きだすから、世の中が24時間休みなく動いていることがわかる。また、このような連携した動きによって人間関係が良くなると考えている。それは会社などの仕事だけでなく普段の生活の中でも家事を分担したり物事を効率よく進めるために協力しあったりすることによって、その人との仲も深まると思う。だから集団行動において必要なのは、このような働きアリたちだけでなく、普段はさぼっているけれど困ったときに助けてくれるアリの様な人も必要だということがわかる。このことから、私はアリの集団に見られたこの現象は、人間の社会にも当てはまるといえる。しかし、この普段はさぼって、困ったときに働きだすアリのような人間が多すぎるのもよくない。勤勉なアリのように働く人間、困ったときに働きだすアリのような人間、どちらもバランスよくいないと上手く世の中が動かないと感じた。

## 高校2年生 グランプリ

2年1組 沼田 みなみ

私は、このアリの話は人間の社会でも同じだと思う。理由としてアリも人間も支え合って生活していると思うからだ。

生きるうえで集団生活の場に欠かせないものである。しかし、その集団の中でどのような活動をするかは結局自分次第だということである。働き者は休まずに働き続けているかもしれない。怠け者はきつとその働き者の姿を見ているだろう。その姿を見ているからこそ、働き者がダメになったとき、「助ける」という行動に移れるのだと思う。

ある学校では、一、二年生ではなく三年生が仕事を全部行うという。それは、何もせずただ毎日過ごすだけの三年生が、働き者の後輩たちを見て動き始めたことだという。私はこの話を聞いたとき、一生懸命やる人の気持ちは、周りに伝わっていくのだと思った。

だからといって、働き者だけが偉いとは思わない。見かけだけの人間もたくさんいるからだ。怠け者のアリが、長生きするというのは、働き方や一生懸命さを見てそれを自分にも身に付けようとするから成功するのだと思う。きつとそこで成功した者は、次の怠け者がお手本とする「働き者」になることだろう。

こうして続いていくのが「集団生活」であり、働き者と怠け者の関係性だと思う。アリも人間も、周りを見ていて影響されて支え合う良い関係を築いているのだと思う。

## 高校2年生 準グランプリ

2年10組 近藤 理貴

課題には、アリの集団に常に2、3割存在する「働かない働きアリ」のような現象が人間の社会にも当てはまるかである。私はこの問いに当てはまらないと答える。理由は主に現代の人間社会の考え方の変化にあると思う。はるか昔、動物を狩って生活していた時代は、おそらく働くこと=生きることだったであろう。働いて動物を狩ってこなければ、食べ物が入らずに死んでしまう。そういった簡単な構図の上で生きていたと思う。

しかし、今の社会を見渡してみても「働くこと=生きること」という様にはどうしても見えない。現代を表すならば、「働くこと=娯楽を手に入れる」といったところか。「生きる」ということは当たりまえになったのである。無論生きるために働く人がいることは確かだ。それが叶わずに死んでしまう人もいいる。しかし、全体として見ればそのような考え方は確実に消えていっていると感じる。

アリはおそらく前者だろう。そして「働かない働きアリ」のような存在も、働かなければ壊滅してしまう集団の中で長い年月をかけて編みだした、生きていく術なのだと思う。

今、日本では働かない若者が問題となっている。彼らと上記のアリとが同じに見えるかと聞かれたら、私はノーと答えるだろう。日本の社会の最前線で戦う人がいなくなったとき、彼らは一斉に立ち上がるだろうか。彼らも一緒にいなくなるように思ってしまうのだ。

# 学年だより 高1

6月28日に行われたスポーツ大会では7組が総合優勝を飾り、栄えある「吉川杯」を手にしました。以下に対戦の詳細を報告します。

女子バレーボール 優勝 3組 準優勝 6組 第3位 9組

1組 7組 6組 10組 9組 5組 2組 4組 8組 3組

優勝できたのは一生懸命応援してくれた仲間、コート内で共に戦ってくれた仲間がいたからです。ありがとう。(3組・坂口 由依)

女子バスケットボール 優勝 7組 準優勝 1組 第3位 3組

2組 5組 7組 8組 6組 10組 3組 9組 1組 4組

バスケ経験者ではない子も一緒に戦って1位をとれたのですごくうれしかったです。最高の思い出になりました。(7組・実川 舞香)

男子バレーボール 優勝 2組 準優勝 7組 第3位 8組

6組 4組 1組 2組 10組 5組 7組 9組 3組 8組

初めてのスポーツ大会での優勝で、クラスの団結が深まったと思います。今回は吉川杯を目指して一丸となって頑張りたいです。(2組・清水 健郎)

男子バスケットボール 優勝 4組 準優勝 5組 第3位 7組

1組 10組 2組 3組 5組 7組 9組 6組 8組 4組

一戦一戦が厳しい中で、優勝を目標に頑張りました。後期も優勝して2連覇を果たしたいです。(4組・吉原 聖樹)

男子ドッジボール 優勝 9組 準優勝 8組 第3位 1組

3組 4組 10組 7組 9組 5組 1組 6組 2組 8組

運動部をはじめいろいろな人が活躍し、みんなでとった優勝なので、冬も優勝目指して頑張ります!(9組・沖 和樹)

綱引き 優勝 5組 準優勝 7組 第3位 9組

2組 5組 3組 4組 8組 6組 7組 10組 9組 1組

勝ち進むにつれ優勝したいという強い気持ちが一つになりました。次のスポーツ大会でも必ず1位を保ちます。(5組・小林 未来)

## 激闘を終えて

保健体育科 福岡 政章

当日は悪天候のためアリーナ開催となりましたが、そんな雨にも負けない活気のある大会となりました。どの競技においても盛り上がりを見せ、準決勝・決勝と上がるにつれチーム力も拮抗し、接戦の中で好プレーも多く見られました。特に女子バスケットボール決勝、7組対1組のフリースロー対決や最終競技・綱引きは全クラスが注目し、手に汗握るなか熱戦が繰り広げられました。

総合優勝した7組の皆さん、おめでとうございます。惜しくも優勝を逃した準優勝の5組、3位の9組、4位の4組もよく健闘しました。残念ながら入賞できなかったクラスも全員が同じ目標に向かって尽力する貴重な経験となったのではないのでしょうか。これを機に2年、3年と共に過ごしていく仲間たちとさらに結束を固めていってほしいと願っています。

最後になりますが、開催に当たり協力していただいた先生方、設営を手伝ってくれた運動部生たち、本当にありがとうございました。



## 朝読書、何を読んでいますか?【第4回】

庄司 馨 さん(学園オリンピック[知的財産部門]夏季セミナー参加)

私は父から勧められたことがきっかけで、この本を朝読んでいます。

### ★ 本田 健・著『10代にしておきたい17のこと』(だいわ文庫)

この本には今後の人生でやるべきことがたくさん書いてあります。特に印象に残っているのは、「守ってくれている両親や学校に感謝できるようになったら大人の世界の入り口に立ったと言えます」という言葉です。今の私はまだ自由を欲しがっています。自由を欲しがっているうちは、子供のままだと感じました。そこから自由をどう謳歌するのか、いまのうちに考えていきたいと思いました。

ぜひ皆さんも自由を欲しがるのでなく、両親や学校に感謝してみてください。また今後の人生で悔いの残らないように一日一日を大切に過ごしてください。

(次号は高校現代文明論の巡回授業を担当してくださっている副校長・池田先生のお薦め図書を紹介いたします)



クラスの仲間たちと(前列中央が庄司さん)

# 学年だより 高2

## 研修旅行 ①

6月22日から5泊6日で研修旅行に出かけました。北海道、沖縄、ハワイ、カナダの4カ所に分かれ、それぞれのコースで、普段の学校生活とは異なる体験や学びがありました。

## ハワイ研修コース

5組 遠藤 海夕

研修コースでは、個人の旅行では行けないようなHTIC(ハワイ東海インターナショナルカレッジ)や、アリゾナ記念館に行くことができ、良い経験をしました。この経験は今後できないものだったのでは、一秒一秒を大切に過ごしました。

平和学習の一環として行ったアリゾナ記念館では、身に染みるものがたくさんありました。戦争の映画を見たとき心が痛み、どうして戦争をしなければ解決できないのだろうと思ったり、関係のない人たちまで巻き込んでしまったのはなぜだろうと感じたりしました。戦争は人々が傷つけ合い、死に、何のメリットもありません。戦争のない私たちの今の暮らしは、幸せなことであり、これこそが平和なのだと感じることができました。

5日目には現地の大学生と交流する機会がありました。ハワイの街を散策し、初めて見る標識やバスの大きさなど、日本とは異なるものをたくさん発見しました。大学生とコミュニケーションをとり、仲良くなることもできましたが、英語での伝え方がわからなかったり、聞き取れなかったりと、お互いにすれ違うこともありました。それでも一生懸命理解しようとしてくれる姿に、とても安心感を持ちました。

この研修旅行では多くのことを学び、多くの出会いがありました。一生の中でも忘れられない思い出になると思います。

## ハワイホームステイコース

6組 光藤 美重

今回初めてホームステイを体験した。自分とは異なる言語を話す人と2日間暮らしてみて、たくさんのことを学ぶことができた。私がホームステイをした家族は、それは単純なようでいて複雑であった。父、母、子供2人の4人家族。英語が一家の言葉ではあるが、父と長男の会話はスペイン語であった。父はスペイン語の教師をしており、母は日本人とのハーフで、日本語も話すことができ、一家族の中で、3種類の言語の世界があったのだ。

そんな家族と生活をしていて学んだことは、たとえ話す言葉は異なっても、会話はできるということだ。むしろ同じ言語同士の場合より、会話が広がったのではないだろうか。たとえば「ありがとう」という言葉は、それぞれの言葉でどのように言うのか、というだけで会話が弾み、さらにその中で、それぞれの文化も学ぶことができた。会話が通じないときはジェスチャーや、父が母と長男との会話を助ける場面も多く見ることができ、そこにはいつも笑顔があった。

私の今の環境は、言語を同じくする人々との生活である。それなのに最近では携帯電話を用いた連絡手段で、会話をしなないことが多くなった。しかし、会話をしてこそ通じる思いがあることを、今回のホームステイで学んだ。



ホストファミリーとともに



ハワイ東海インターナショナルカレッジ前にて



レイの作成



大学生と一緒に

# 学年だより 高3

## 私はこうして進学先を決めました

東海大学への推薦を希望する生徒諸君にとって、6月10日(金)は重要な1日となりました——放課後、学級担任から審査結果通知書を受け取りました。

今回は、「私はこうして進学先を決めました」というテーマで、各々の思いを書いてもらいました。後輩諸君もぜひ参考にしてください。

- 1組 勝谷 凜夢**  
観光学部観光学科  
進学予定

私はスペインの世界遺産であり、現代技術をもってしても完成は難しい、と言われているサグラダ・ファミリアに興味があります。また、サグラダ・ファミリア等の遺産の保護をする仕事がしたいと思っています。この仕事には外国語が必要です。だから、それらを学ぶのに適した学部を選びました。
- 2組 柴野 稜**  
政治経済学部経営学科  
進学予定

私は、年齢を重ねるにつれて、いかに企業や会社が社会に対して貢献しているのかを実感できるようになりました。国家の財政や技術力向上、防衛などの重要な役割を裏で支えているのは企業であると考えようになってから、それらに憧れるようになり、私も起業して社会に貢献したいと思ったからです。
- 3組 浅倉 彩夏**  
ハワイ東海インターナショナルカレッジ  
進学予定

私は、幼い頃から母の影響で留学というものに憧れていたため、高校入学以前からHTICへの進学を決めていました。英語が大好きで、学園オリンピックにも参加し、さまざまな経験をすることができました。それらを生かすためにも、幼い頃から大好きなハワイでの生活に今から希望を抱いています。
- 4組 若月 花梨**  
工学部光画像工学科  
進学予定

私は現代の産業界において欠かせない存在となっている光技術に興味があり、最先端の光や画像に関する知識を身につけたいと思い、この学科に進学しようと決めました。この学科で学ぶ光や画像の知識を生かし、自ら考え問題を解決できる技術者として、研究開発の仕事に携わりたいと考えています。
- 5組 関野 貴友**  
体育学部競技スポーツ学科  
進学予定

私は中学生の時、職業体験で病院へ行きました。見学中に、リハビリやメンタルケアを主とした仕事に魅力を感じました。そこでそれに関連した仕事をしたいと考え、またスポーツにも携わりたかったので、スポーツトレーナーという道を目指し、実際に選手がいてトレーニング論を学べるこの学科を選択しました。
- 6組 佐藤 望美**  
体育学部生涯スポーツ学科  
進学予定

私は幼い頃から体を動かすことが好きで、スポーツを通して、本当に多くのことを学ぶことができました。幼児から高齢者まで、人生のさまざまな場面で重要な役割を果たすスポーツについて知り、いかに人生を豊かで充実したものにするか学び、私自身の視野を広げたいと考えています。
- 7組 村田 元**  
工学部医用生体工学科  
進学予定

少子高齢化が問題となっている今日、私たちは将来的にこの問題に正面から向かい合っていかなければなりません。私はこの問題を医学的見地からでなく、工学的見地から解決したいと思い、この学科を選択しました。将来はこの学科で学んだことを生かし、たくさんの人を救えるようなものを作りたいです。
- 8組 三崎 和**  
観光学部観光学科  
進学予定

私は小さい頃から、キャビンアテンダントや添乗員など、海外に関係する仕事に就くことが夢だったので、観光学部に決めました。今は、空港のグランドスタッフになりたいと考えています。英検やTOEIC等、たくさんの資格が必要になるので、大学在学中に積極的に取得していきたいと思っています。
- 9組 岩屋 喬士**  
体育学部生涯スポーツ学科  
進学予定

進路先を考える際、大学4年間だけでなく就職にも関係してくるので、一つに絞るのは大変でした。両親や学級担任と何度も話し合いを重ねました。最終的には、教員になりたいと考えていたので、自分の好きな科目と比較した上で決定することができました。今では後悔のない進路選択ができたことと確信しています。
- 10組 植木 誠晴**  
工学部医用生体工学科  
進学予定

私は、最初、安易な気持ちで進路先を考えていました。しかし、学年が上がるごとにだんだん自分の興味があるものがわかってきました。看護学校に通っている姉やヘルパーをしている母の影響もあり、自分も医療関係に携わりたいと思い、臨床工学技師の資格が取得できる医用生体工学科への進学を考えました。

## 森田和彦先生、埼玉県美術家協会賞 受賞おめでとうございます

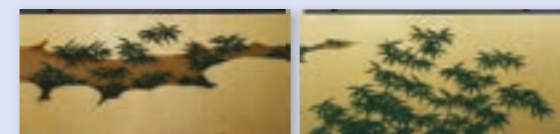
本校の美術科教員 森田和彦先生がこのたび、埼玉県の「第66回県展」において、埼玉県美術家協会賞を受賞されました。森田先生は日本美術院主催の「院展」にも毎年出品されており、本校の生徒指導と並行して画家としても非常にご活躍されています。今回は森田先生にご自身の画家活動についてお話をうかがいました。

### 画道 ～伝統と創造～

日本美術院は創立120年になる日本画の美術団体で、これまでも多くの画家が活躍の舞台としてきました。明治期に西洋から招来された油絵に対し、日本に古来から伝わる絵の具や技法を用いた表現を日本画といいます。

私は大学卒業以来この日本美術院に所属し、春秋2回の「院展」に出品しています。また出身地埼玉では県主催の「埼玉県展」にも毎年出品し、今年は埼玉県美術家協会賞をいただきました。郷里の文化芸術発展のためにも研鑽を重ねています。

また活動の1つとして、以前NHK大河ドラマの城のセットのふすま絵を依頼され描いたことが何回かあります。400年前の桃山様式や絵師の技法をふまえ、数カ月かけてNHKの作業場で描いた絵ですが、1年間の放送の中で10分も映りませんでした。絵はあくまで脇役ですから当然ですが、今の「真田丸」でも御殿で使われ時々映っていて、締め切りに追われて描いた当手を懐かしく思いながら見えています。



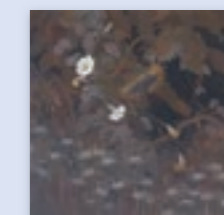
NHK大河ドラマ「真田丸」にも使われている障壁画の一部

私にとって学校での生徒たちへの指導と自身の創作活動は、車の両輪のように切り離せないものです。一生かけて芸術の追及をしていくつもりです。

(森田和彦)



埼玉県美術家協会賞「秋露」



第71回春の院展 出品作品「明希露」



美術部で指導される森田先生

## 2016年度学校運営方針

5月号で掲載した2016年度の学校運営方針重点目標について、詳しく紹介していきます。

### 2016年度の重点目標 PART.3

#### 5 タブレットPC、電子黒板等を活用したICT教育を推進する

#### 6 アクティブラーニングを取り入れた授業改革を組織的に取り組む

本校では2008年に全教室に電子黒板が設置され、既に多くの授業で活用してきた実績があります。これに加え、昨年度は650台のタブレットPC(Microsoft Surface3 Pro)を導入、教室の無線LANも強化しました。これで教室の全生徒がタブレットを使用し、電子黒板ともワイヤレスでつなげ、インターネットにもアクセスできる環境が実現しました。これらICTツールを効果的に活用して、アクティブラーニング(双方向型の能動的な学び)を取り入れた新時代の授業開発に、全校で取り組んでいきます。

#### 7 中等部・高校・大学10年間の一貫教育を充実させる

中等部・高校・大学の10年間、一貫した教育方針のもとで人を育てていく。このことを全教職員が強く意識して日々の指導にあたっていきます。教科の授業、学級・学年の活動、部活動等、学校生活のあらゆる面で一貫教育を推し進めていきます。



# SSH活動報告 ～国際交流～

6・7月に本校で国際交流をする機会が3回ありました。SSHクラスの生徒が中心でしたが、多くの国の人々と交流することができ、良い刺激を受けたようでした。

## Bellingham High School (アメリカ ワシントン州)

6/20(月)アメリカワシントン州にあるBellingham High Schoolより、生徒7名・引率者3名が来校されました。ベリングハム高校の生徒たちは学校で日本語を勉強している生徒たちで、日本のことにたいへん興味を持っていました。折り紙や書道の体験をしたほか、七夕が近かったので短冊に願い事を書いて笹の葉に結ぶなど、日本文化の体験を2年SSHクラスの生徒たちと一緒に楽しみました。

### 国境を超えた友情

2年10組 三上 圭巨

私はアメリカから学生が来ると聞いてとても興奮しましたが、英語が母国語ではないので気まずさしか生まれないのではと不安でした。しかし、いよいよ交流が始まると、驚いたことに日本語で話し始めてくれました。一生懸命に話している姿を見て、不安なのは自分だけではなかったこと、日本に来るのを楽しみにしてくれていたことがわかりました。そこから私は「日本に来てよかった」と思ってもらえるよう行動しました。まず漢字文化を知ってもらうために、相手の自己紹介を聞き、意味を伝えながら漢字表記の名前を作ってあげました。その後折り紙も教えてあげました。喜んでくれる顔を見ると「もっと教えてあげたい」「英語でもっと伝えたい」という気持ちが強まり、書道と七夕飾りも一緒に楽しみました。私の気持ちが通じ、彼らとはいまだに連絡を取り合っています。このような海外交流の機会がこの学校には多くあります。積極的に取り組んで、世界を飛び回る仕事に就くという夢をいつか叶えたいです。



## さくらサイエンスプラン

「さくらサイエンスプラン」とは、日本科学技術振興機構(JST)が行う「日本・アジア青少年サイエンス交流事業」のことで、未来を担うアジア地域と日本の青少年が科学技術の分野で交流を深め優秀な人材の育成を図り、アジア地域と日本の科学技術の発展に貢献することを目的とするものです。今回本校はJSTの依頼を受け、7/20(水)に中国(60名)、島嶼国(54名)の合計114名(引率者含む)を受け入れました。アリーナで全校生徒(中等部・高校)による歓迎式のあと吹奏楽部による歓迎演奏が行われました。訪問団の皆さんは迫力ある演奏に驚き感動された様子でした。その後、1年から3年のSSHクラスの生徒たちと混合グループを作り、割り箸と輪ゴムを使って構造物を作り高さを競うというゲームを行いました。グループ内で積極的にコミュニケーションを取りながら、割り箸と輪ゴムと格闘する姿が見られました。グループごとに交流しながら食堂で昼食を取ったあと、高輪キャンパスで2001年にノーベル化学賞を受賞された名古屋大学特別教授の野依良治博士の特別授業を受けました。野依先生の講演は英語で行われ、専門的な内容もありましたが、野依先生の熱のこもった説明についていこうと、皆熱心に耳を傾けていました。SSHクラスの生徒たちが生徒同士の交流の場面で英語で進行したり、本校の学校紹介をパワーポイントを使って英語で行うなど、日頃の取り組みの成果を見せてくれました。



### さくらサイエンスを終えて

1年10組 岩撫 匠海

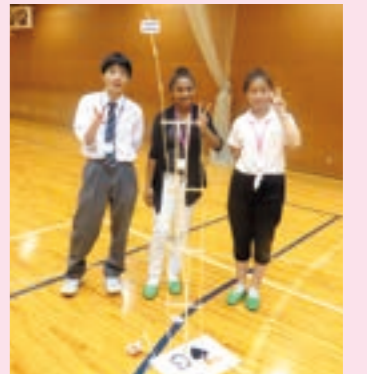
さくらサイエンスの話聞いたときに、2つのことを考えました。一つは「海外の人と英語で会話なんてできるのだろうか」という不安。もう一つは「海外の人と英語で会話なんてなかなかないし面白そう」という期待。当日になって、秋葉原に着いてもその不安と期待はなくなり、パートナーの阿部君に会話を任せようかと思ったほどでした。しかし実際に話してみると、自分の稚拙な英語でも伝わりました(もしかしたら相手が頑張ってくれたのかもしれませんが)。ただ海外の人はテンションが高いというか、はっきり自己主張してくれるので、意見をまとめるのが大変でした。今回は時間があまりない中での案内で、さらに海外の人の観光がメインだったので、あまり話す機会はありませんでしたが、最後の夕食会では写真を撮ったり撮られたりと、普段経験ができませんでしたが、また機会があれば参加したいです。

最後の夕食会では写真を撮ったり撮られたりと、普段経験ができませんでしたが、また機会があれば参加したいです。

### 文化と個性のさくら

2年10組 平岩 輝海

今回のさくらサイエンスでは、中国、パプアニューギニア、東ティモールなどさまざまな国々の方々と英語を通じて触れ合うことができました。わからないこともありましたが、前回と比べると会話が成立する時が多くあり、1年間の成長が実感できてとてもうれしかったです。また、1年生があまり話せず、話そうと思っても上手く伝えられていない部分を助けてあげるといった経験を積むこともできました。今回のさくらサイエンスは海外の生徒と私たちの双方に学ぶことが多くあったプログラムでした。特に文化と個性への理解を深めることができました。例えば、私の班には中国とパプアニューギニアからの生徒がいましたが、激しい受験競争がある中国の生徒は知識豊富で、発想の転換も非常に上手でした。しかしその反面、とても引っ込み思案な部分が見られました。一方パプアニューギニアの生徒は、積極的にいろいろと話してくれました。文化の違いを感じさせ、楽しませてくれるこのプログラムにとても感謝しています。



## Princess Chulabhorn Science High School Trang (タイ)

7/12(火)～7/14(木)本校とMOUを交わし交流関係にあるプリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール・トラン校が来校されました。訪問団は生徒3名・引率5名からなり、昨年9月について二度目の訪問でした。3年SSHクラスの生徒たちと互いの研究内容について発表会を行ったほか、数学・生物の授業への参加や日本文化の体験してもらいました。日本文化体験として参加した中等部3年B組の書道の授業では、中学生たちが英語を使って積極的にサポートしてくれ、トラン校の生徒たちは慣れない筆さばきながらも自分でしっかりと漢字・ひらがな・カタカナを書くことができていました。また、3年SSHクラスの生徒たちと一緒に「和食」の調理実習を行い、肉じゃがと味噌汁作りを体験しました。トラン校の皆さんはとても満足されて帰国されました。



### Friends

3年10組 松岡 理紗

私が以前タイに訪れた時の印象は、朝の通勤ラッシュでバイクやスクールバスが多かったこと、食事が日本に似ていること…等いくつかあります。タイに滞在中、タイの方々に優しくされたことを思い出し、今回タイから留学生が来校すると聞き、私はどんなふうに関わりたいのかずっと考えていました。一方で、自分の英会話力で相手に伝わるのか不安でした。そして留学生の中には、日本語の上手な生徒もいました。日本語はとても難しい言語だと思います。日本人は10年以上英語を学んでも、英語を話すことがなかなか上達しません。それに比べて、タイの留学生は母国語・英語・日本語の3カ国語を話せることに努力と勉強への熱意を感じました。また特にタイの留学生は和食の調理実習に興味を持っていて、自ら卵焼き作りチャレンジしていました。今回の交流で、自分のスキルアップとなる貴重な体験をしました。この経験を自身の今後に生かしていきたいです。

## お知らせ

### 2016 東海カルチャーセミナー

❖日時:9月3日(土) 13:00~15:10 (12:30受付開始) ❖場所:本校アリーナ

第1部 本校吹奏楽部によるコンサート 指揮: 畠田 貴生  
 第2部 講演会 講師: 梶井 龍太郎 先生 (東海大学教養学部芸術学科音楽学課程教授)  
 テーマ:「オペラへの誘い」～人の思いを1つにして作り上げる舞台～

### 2016年度 第15回高校体育祭

◎日時:9月28日(水) 9:30~16:00

◎場所:本校さいたま総合グラウンド

## 行事予定

## September 9月

## October 10月

- 1日(木) 朝礼、避難訓練[正制服着用] 45分短縮授業
- 3日(土) 3時限授業(4限カット) 東海カルチャーセミナー  
後援会委員総会
- 6日(火) 校医相談日⑤
- 7日(水) 専門医によるカウンセリング③
- 8日(木) 生徒による授業評価アンケート②  
生徒による学校評価アンケート①
- 12日(月) 前期末試験(中等部:~15日、高校:~16日)
- 13日(火) 生徒自宅学習日
- 16日(金) 写生大会(中等部)
- 17日(土) 生徒自宅学習日
- 19日(月) **敬老の日**
- 20日(火) 答案返却
- 21日(水) 生徒自宅学習日
- 22日(木) **秋分の日**
- 23日(金) 生徒自宅学習日
- 24日(土) 生徒自宅学習日
- 25日(日) 東海大学オープンキャンパス(高2) 高輪会役員会
- 26日(月) 振替休日(高2)
- 28日(水) 第15回高校体育祭(さいたま総合グラウンド、延期の場合は授業日)  
特別時程(中等部)

- 1日(土) 後期始業式[冬期正制服着用] 45分短縮授業  
保護者会②[家庭通知表配布]
- 5日(水) 第15回高校体育祭予備日(9/28体育祭実施、延期の場合は授業日)
- 6日(木) 学年集会②(中1、高1)
- 8日(土) 英検(3、4時限:中等部)
- 10日(月) **体育の日**
- 11日(火) AM:土曜日の授業 PM:振替休日(10/1分)  
校医相談日⑥ 学校保健委員会② 安全衛生委員会②
- 12日(水) 建学祭開祭式(7時限)
- 13日(木)・14日(金) 建学祭準備日
- 15日(土)・16日(日) **第52回建学祭**
- 17日(月) 建学祭閉祭式(1時限) 短縮4時限授業  
PM:振替休日(10/15分)
- 18日(火) 振替休日(10/16分)
- 19日(水) 第15回高校体育祭予備日  
(9/28、10/5体育祭実施、延期の場合は授業日)
- 20日(木) 学年集会②(中3) 学年集会③(高3)
- 23日(日) 受験生・保護者対象学校説明見学会③(高校)
- 24日(月) 教育実習(~11/16)
- 27日(木) 生徒会立会演説会(1時限 中等部:アリーナ 高校:放送)
- 29日(土) 特別時程 SSH成果報告会

## 剛健旅行



田代チェックポイント



ゴミ回収部隊



豚汁とおにぎりの支給



ごちそうさま

## 編集後記

この夏、さまざまな話題があった。社会現象とまで騒がれたポケモンGOの配信、都知事選挙、オリンピック史上初となる南アメリカ大陸でのリオデジャネイロオリンピック、アメリカ大統領選挙に向け共和党のトランプ氏と民主党のクリントン氏が正式に候補者として決定したことなど。いたる所で激戦が繰り広げられなんと熱い夏だった。そんな中、朝晩めっきり涼しくなり季節は着実に秋へと向かっている。季節の変わり目は体調を崩しやすい。体調には十分気を付け季節を楽しみながら過ごしたいものである。(ほ)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部

TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ:<http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/>